

輸入コンパクトカーがお台場に集結!

今 月号の第2特集は、小誌としては異例の19台を一同に集め、9人のモータージャーナリストが一気に試乗して評価するというイベント感覚のハッチバック企画を組んだ。

UCGは1台のクルマをじっくり見せるのがスタイルなのだけれど、今回は各ブランドの注目コンパクトカーを22頁にわたり駆け足で紹介していく。お祭り気分、試乗会みたいなライブ感を存分に楽しんでいただきたい。

輸入コンパクトカーは、白/黒/シルバーのボディだけではない。赤/オレンジ/ライトグリーン/モスグリーン/スカイブルー/コバルトブルー……、辺りの雰囲気や瞬間に明るくしてくれる名脇役、いや、主役級が揃っている。

第1特集に登場する超弩級のスポーツカーが2~3台も集まると、その場がピンと張りつめた空気になるが、色とりどりのコンパクトカーが20台近く集うと、不思議と周りにいる人も笑顔になる。たまにはこういう企画もいいものだ。

そう言えば、小誌には初登場となるブランドのクルマも参加してくれている。ヒュンダイTBとGMDAT マティスだ。ご存じのように韓国で生産されるクルマである。初めて目にする方も多いただろう。この2台に対して、辛口のモータージ

ャーナリストたちがどんな成績表をつけたのか? じっくりひも解いていただきたい。もしかすると数年後には、軽自動車を含む国産コンパクトカーイーターになっているのかもしれない。何と言っても、コストパフォーマンスはかなり高い……、個人的にはそんなことを感じた。

欧州軍団も負けてはいない。スライドドア、高級サルーンに匹敵するインテリア、3ℓ直6を搭載する力自慢……、スポーツカー顔負けのステアリングフィール……、これぞ群雄割拠、さすが激戦区で生き残っているクルマばかりだ。やはりドイツ車は強いのだろうか? それともラテン車が一泡吹かせるのか? 購入のための虎の巻になることは間違いない。

さて、この企画を実現するために、正規ディーラー/専門店のスタッフ、モータージャーナリスト、フォトグラファー、認定中古車.comスタッフなど、50人以上が東京・台場の広大な駐車場に集まってくれた。特に、激務の合間をぬって、試乗車のステアリングを握り駆けつけてくれた正規ディーラーの方、そして専門店の方には、この場を借りて感謝したい。

それにしても、魅力的なクルマと百戦錬磨のベテラン営業マンの組み合わせは強力だ。彼らと話していたら、すべての試乗車を持ち帰りたくなった……。

野田義彦
YOSHIHIKO NODA

情報誌の編集部を経て、創刊準備号からUCGに加わり、第2特集のちょっと古いクルマを中心に担当。03年4月号からUCG編集長を務める。現在の愛車はランチア・テーマ8.32。1959年生まれ。

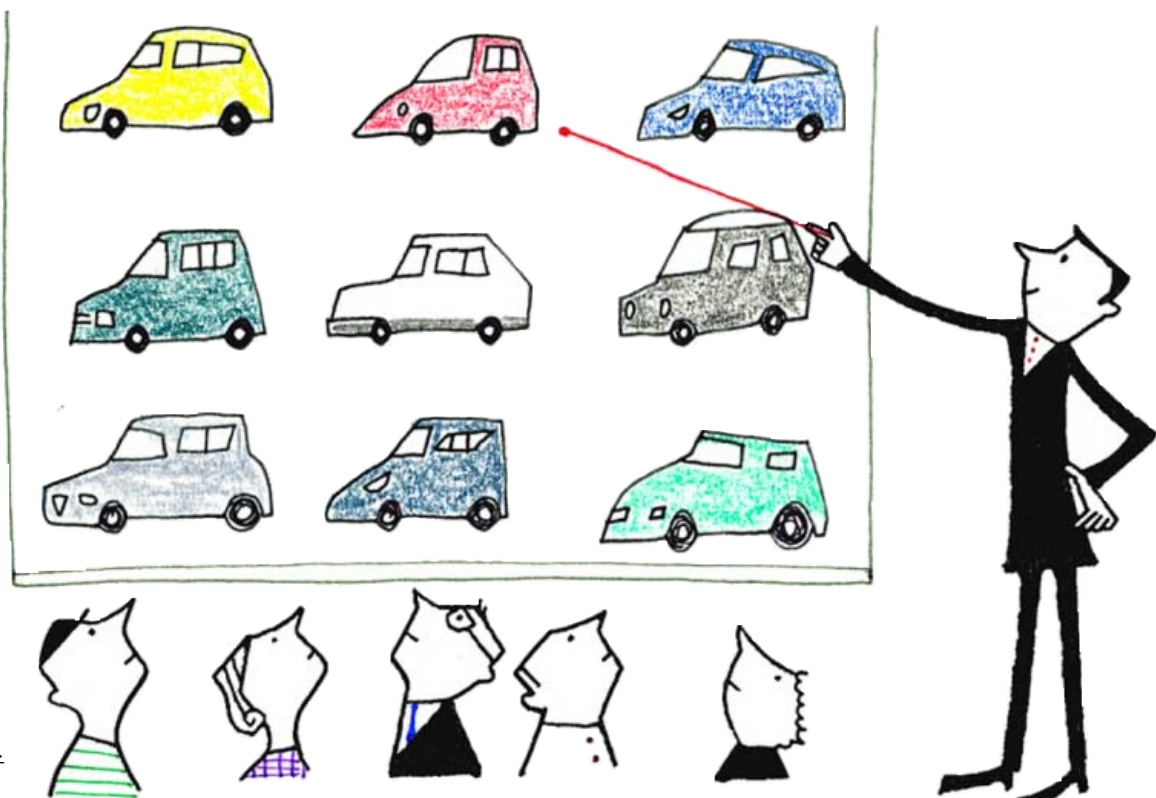


Illustration: 谷山彩子